３　中学校
国　語

設問別調査結果　［中学校　国語Ａ：主として知識］

分類・区分別集計結果

分類	区分	対象設問数（問）	平均正答率(%) 札幌市	平均正答率(%) 全国(公立)
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	4	◇	77.6
	書くこと	4	◇	64.5
	読むこと	6	◇	80.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	18	◇	77.5
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0		
	話す・聞く能力	4	◇	77.6
	書く能力	4	◇	64.5
	読む能力	6	◇	80.0
	言語についての知識・理解・技能	18	◇	77.5
問題形式	選択式	21	◇	77.3
	短答式	11	◇	74.7
	記述式	0		

※「ほぼ同程度」は、全国の平均正答率と比較して±３ポイントの範囲内。

設問別集計結果

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等 話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	問題形式 選択式	短答式	記述式	札幌市 正答率(%)	札幌市 無解答率(%)	全国(公立) 正答率(%)	全国(公立) 無解答率(%)
１一	話合いでの司会の発言の役割について説明したものとして適切なものを選択する	話合いの方向を捉えて司会の役割を果たす	○				○			◇	0.1	90.5	0.2
１二	話合いの方向を捉えた司会の発言として適切なものを選択する		○				○			△	0.2	54.7	0.2
２一	「おかしいようでもあり，又それがおもしろくもおもえる」と筆者が述べたものとして適切なものを選択する	描写に注意して読み，内容を理解する			○		○			△	0.2	76.0	0.3
２二	「あの枯れ枝の梢を……うれしげであることだろう。」と筆者が感じた理由を説明したものとして適切なものを選択する	描写の効果を考え，内容を理解する			○		○			◇	0.4	86.7	0.5
３一	見出しを変更した理由として適切なものを選択する	書いた文章を読み返し，目的に応じた表現に直す		○			○			△	0.6	58.1	0.8
３二	出された意見を整理して，決定の理由を適切に書く	文の接続に注意し，伝えたい事柄を明確にして書く		○				○		◇	5.9	48.8	6.0
４一	「内容」の欄に共通する表現の仕方の説明として適切なものを選択する	文章の表現の特徴を捉える			○		○			◇	0.3	84.8	0.3
４二	前日までに申込みをしなくても中学生が参加できる講座番号を選択する	目的に応じて必要な情報を読み取る			○		○			◇	0.3	70.1	0.4
５一	米の断面図に入る言葉として適切なものを選択する	文脈の中における語句の意味を理解する			○		○			◇	0.4	86.8	0.4
５二	「小麦はそういうわけにはいきません」と述べている理由として適切なものを選択する	文章の展開に即して内容を捉える			○		○			◇	0.4	75.6	0.4
６一	取材の仕方の説明として適切なものを選択する	話すための材料を多様な方法で集める	○				○			◇	0.5	84.6	0.7
６二	カードを使って話す際に使用する言葉の組合せとして適切なものを選択する	論理的な構成や展開を考えて話す	○				○			◇	0.7	80.7	0.9
７一	比較の対象が明確に分かるように書く	伝えたい事柄を明確にして書く		○				○		◇	4.3	73.6	4.4
７二	内容に応じて第二段落を二つに分ける	段落の役割を考えて文章を構成する		○			○			◇	0.8	77.5	1.1
８一１	漢字を書く（大きなキボウをもつ）	文脈に即して漢字を正しく書く				○		○		—	2.6	87.5	3.0
８一２	漢字を書く（おやつをキントウに分け合う）					○		○		◆	11.1	59.3	11.9
８一３	漢字を書く（着物に合わせてオビを選ぶ）					○		○		◇	13.7	66.7	15.2
８二１	漢字を読む（異論を唱える）	文脈に即して漢字を正しく読む				○		○		◇	2.1	93.2	2.7
８二２	漢字を読む（社会を風刺する）					○		○		△	3.9	70.6	4.9
８二３	漢字を読む（山々が連なる）					○		○		◇	2.3	89.4	2.7

８三ア	適切な語句を選択する（今年の夏の暑さには閉口した）	語句の意味を理解し，文脈の中で適切に使う				○	○			◆	1.3	46.6	1.7
８三イ	適切な語句を選択する（友達に将来の抱負を話す）					○	○			△	0.6	62.7	0.8
８三ウ	適切な語句を選択する（あこがれの仕事に就く）					○	○			◇	0.5	96.3	0.7
８三エ	適切な語句を選択する（直前になって，二の足を踏む）					○	○			◇	0.6	84.8	0.9
８三オ	適切な語句を選択する（にわかに強い雨が降り出し，人々はあわてた）					○	○			△	0.6	81.3	0.9
８三カ	適切な語句を選択する（彼には，いくら言っても「馬の耳に念仏」で効果がない）					○	○			◇	0.9	90.2	1.1
８四	行書を楷書で書く	漢字の楷書と行書との違いを理解して書く				○		○		◇	1.3	96.4	1.4
８五１	「母がイギリスに帰りました。」という言い方が正しい理由として適切なものを選択する	敬語の働きについて理解する				○	○			◇	0.7	69.8	1.0
８五２	適切な敬語を選択する	文脈の中で敬語を適切に使う				○	○			◇	0.7	91.3	1.0
８六	「すさまじい」と修飾・被修飾の関係にあるものを選択する	修飾語と被修飾語の照応について理解する				○	○			◇	1.1	73.4	1.5
８七１	「かすみ」や「雲」のように見えたものを本文中から抜き出す	比喩を用いた表現について理解する				○		○		▼	3.0	52.4	3.7
８七２	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す（にほふ）	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む				○		○		◆	5.1	83.4	5.5

（△）上回っている（◇）ほぼ同程度だがやや上回っている（－）全国平均と同じ（◆）ほぼ同程度だがやや下回っている（▼）下回っている

【設問分析】

１　話合いをする

1は、設問一、二とも話合いをする際に、話合いの方向を捉えて司会の役割を果たすことができるかどうかをみるものである。

【設問一】話合いの方向を捉えて司会の役割を果たすこと

・話合いでの司会の発言の役割について説明したものとして適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比べて、やや上回っている。

【設問二】話合いの方向を捉えて司会の役割を果たすこと

・話合いの方向を捉えた司会の発言として適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率を上回っている。

「話すこと・聞くこと」領域における、「話合いの話題や方向をとらえて的確に話したり、相手の発言を注意して聞いたりして、自分の考えをまとめること」については、全国の平均正答率と比べて、やや上回っているか、または、上回っている。

話合いの学習を行う際には、自分の考えを分かりやすく相手に伝えるよう立場を明確にするとともに、考えの理由を明らかにして話すよう指導することが引き続き大切である。また、司会を立てて話合いを行う場合は、参加者それぞれに発言の機会を与えるなど、司会の役割を意識できるよう指導することが必要である。

２　随筆を読む

2は、随筆の描写に注意して読み、内容を理解すること、描写の効果を考え、内容を理解することができるかどうかをみるものである。設問一では、描写に注意して読み、内容を理解しているかどうかについて、設問二では、描写の効果を考え、内容を理解しているかどうかについて、それぞれ選択式で問われている。

【設問一】描写に注意して読み、内容を理解すること

・「おかしいようでもあり、又それがおもしろくおもえる」と筆者が述べたものとして適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率を上回っている。

【設問二】描写の効果を考え、内容を理解すること

・「あの枯れ枝の梢を…うれしげであることだろう。」と筆者が感じた理由を説明したものとして適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比べて、やや上回っている。

「読むこと」領域における、「設問一」の「場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること」については、全国の平均正答率を上回っている。また、「設問二」の「文章全体と部分との関係、例示や描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てること」については、全国の平均正答率と比べて、やや上回っており、正答率も高い。

随筆を読む際には、筆者の考えを、描写などに注意して捉えることが重要であり、時代背景や地域などにも注意するよう指導することが有効である。

また、自分の経験と結び付けて筆者の考えを読み取ったり、その背景を想像した上で、自分なりの感想をまとめさせることが引き続き大切である。

３　報告をする文章を書く

３は、報告をする文章を書く際に、書いた文章を読み返し、目的に応じた表現に直すこと、文の接続に注意し、伝えたい事柄を明確にして書くことができるかどうかをみるものである。設問一では、書いた文章を読み返し、目的に応じた表現に直すことができるかどうかについて選択式で、設問二では、文の接続に注意し、伝えたい事柄を明確にして書くことができるかどうかについて記述式で問われている。

【設問一】書いた文章を読み返し、目的に応じた表現に直すこと

・見出しを変更した理由として適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率を上回っている。

【設問二】文の接続に注意し、伝えたい事柄を明確にして書くこと

・出された意見を整理して、決定の理由を適切に書く設問では、全国の平均正答率に比べて、やや上回っている。

「書くこと」領域における、「設問一」の「書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係などに注意して、読みやすく分かりやすい文章にすること。」については、全国の平均正答率を上回っているが、正答率は高くない。また、「設問二」の「事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりして書くこと。」については、全国の平均正答率に比べて、やや上回っている。

報告する文章を書く際には、伝えるべき内容が読み手に適切に伝わるようなものにする必要があり、文章全体のまとまりを考えて全体と部分との関係を見直すなど、文章の整え方について指導することが引き続き大切である。また、取り上げる事柄が相手に効果的に伝わるように表現を工夫することも大切であり、例えば行事や職場体験などの体験を、目的や読み手を意識して報告する場面を設定するなどの指導も重要である。

４　図表を読む

４は、図表を読む際に、文章の表現の特徴を捉えること、目的に応じて必要な情報を読み取ることができるかどうかをみるものである。設問一では、文章の表現の特徴を捉えることができるかどうかについて、設問二では、目的に応じて必要な情報を読み取ることができるかどうかについて、それぞれ選択式で問われている。

【設問一】文章の表現の特徴を捉えること

・「内容」の欄に共通する表現の仕方の説明として適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比べて、やや上回っている。

【設問二】目的に応じて必要な情報を読み取ること

・前日までに申込みをしなくても中学生が参加できる講座番号を選択する設問では、全国の平均正答率と比べて、やや上回っている。

「読むこと」領域における、「設問一」の「文章の構成や展開、表現の特徴について、自分の考えをもつこと。」については、全国の平均正答率と比べて、やや上回っており、正答率も高い。また、「設問二」の「本や文章などから必要な情報を集めるための方法を身に付け、目的に応じて必要な情報を読み取ること。」については、全国の平均正答率と比べて、やや上回っている。

文章の表現の特徴を捉えるためには、その文章が書かれた目的を考えることが重要である。そのためには、宣伝文や取扱説明書などの様々な資料を用いて指導することが有効である。また、目的に応じて必要な情報を読み取るためには、複数の資料を比較したり、社会生活において生徒が目的意識をもって読むことが多い実用的な文章を教材として用いるなどの指導が引き続き重要である。

５　説明的な文章を読む

５は、説明的な文章を読む際に、文脈の中における語句の意味を理解すること、文章の展開に即して内容を捉えることができるかどうかをみるものである。設問一では、文脈の中における語句の意味を理解しているかどうかについて、設問二では、文章の展開に即して内容を捉えることができるかどうかについてそれぞれ選択式で問われている。

【設問一】文脈の中における語句の意味を理解すること

・米の断面図に入る言葉として適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比べて、やや上回っている。

【設問二】文章の展開に即して内容を捉えること

・「小麦はそういうわけにはいきません」と述べている理由として適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比べて、やや上回っている。

「読むこと」領域における、「設問一」の「文脈の中における語句の意味を的確にとらえ、理解すること。」及び「設問二」の「文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などとを読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりすること。」については、全国の平均正答率と比べて、やや上回っている。

図表を用いた文章を読む際には、図表と文章の関連を確認しながら語句の意味を確かめて的確に読み取るよう指導することが引き続き大切である。また、説明的な文章を読む際には、説明されている様々な事柄を正確に理解することが大切である。そのためには、書かれている事柄の共通点や相違点

をまとめながら読んだり、複数の本や情報をあわせて読んだりしながら理解を深めるように指導することが引き続き大切である。

６　スピーチをする

６は、スピーチをする際に、話すための材料を多様な方法で集めること、論理的な構成や展開を考えて話すことができるかどうかをみるものである。設問一では、話すための材料を多様な方法で集めることができるかどうかについて、設問二では、論理的な構成や展開を考えて話すことができるかどうかについて、それぞれ選択式で問われている。

【設問一】話すための材料を多様な方法で集めること

・取材の仕方の説明として適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比べて、やや上回っている。

【設問二】論理的な構成や展開を考えて話すこと

・カードを使って話す際に使用する言葉の組合せとして適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比べ、やや上回っている。

「話すこと・聞くこと」領域における、「設問一」の「社会生活の中から話題を決め、話したり話し合ったりするための材料を多様な方法で集め整理すること。」については、全国の平均正答率と比べて、やや上回っている。また、「設問二」の「異なる立場や考えを想定して自分の考えをまとめ、話の中心的な部分と付加的な部分などに注意し、論理的な構成や展開を考えて話すこと。」も、全国の平均正答率と比べて、やや上回っている。

スピーチをする際には、話題について幅広く考えることが大切であり、新聞・雑誌・テレビ・情報通信ネットワークなどを含めた様々な情報手段だけではなく、インタビューや学校図書館の活用など多様な取材の方法を用いるように指導することが大切である。

また、スピーチなど他の人に自分の考えを伝える学習の際には、論理的で分かりやすい構成や展開を工夫することが大切である。そのためには、例えばカードを活用して話す順序を検討したり、適切な接続の言葉を考えたりすることが有効である。

７　グラフを基に文章を書く

７は、グラフを基に文章を書く際に、伝えたい事柄を明確にして書くこと、段落の役割を考えて文章を構成することができるかどうかをみるものである。設問一では、伝えたい事柄を明確にして書くことができるかどうかについて記述式で、設問二では、段落の役割を考えて文章を構成することができるかどうかについて選択式で問われている。

【設問一】伝えたい事柄を明確にして書くこと

・比較の対象が明確に分かるように書く設問では、全国の平均正答率と比べ、やや上回っている。

【設問二】段落の役割を考えて文章を構成すること

・内容に応じて第二段落を二つに分ける設問では、全国の平均正答率と比べ、やや上回っている。

「書くこと」における、「設問一」の「書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係などに注意して、読みやすく分かりやすい文章にすること。」については、全国の平均正答率と比べて、やや上回っている。また、「設問二」の「集めた材料を分類するなどして整理するとともに、段落の役割を考えて文章を構成すること。」についても、全国の平均正答率と比べて、やや上回っている。

説明や記録などの文章を推敲する際には、表記や語句の用法を確かめるとともに、伝えるべき事実などがしっかりと書き表されているか検討する必要がある。そのために、数値などの情報が正確であるか、また読み手に誤解を与えるような表現がないかなど、読み手の立場から文章を読み返すように指導することが大切である。また、事実を基に考察したことを述べる文章などを書く際には、段落の役割を踏まえた上で、例えば構成メモなどを作って文章を書くなどの学習活動が有効である。

8　伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項等

8は、言語や言語文化に関する知識・技能を身に付け、文や文章の中で適切に用いることができるかどうかをみるものである。設問一では、文脈に即して漢字を正しく書くことについての三つの設問、設問二では、文脈に即して漢字を正しく読むことについての三つの設問、設問三では、語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことについての六つの設問、設問四では、漢字の楷書と行書との違いを理解して書くことについての設問、設問五では、敬語の働きを理解することについての設問及び文脈の中で敬語を適切に使うことについての設問、設問六では、修飾語と被修飾語の照応を理解することについての設問、設問七では、比喩を用いた表現を理解することについての設問及び歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことについての設問で構成されている。

【設問一】文脈に即して漢字を正しく書くこと

1　「希望」を文脈に即して書く設問では、全国の平均正答率と同じである。

2　「均等」を文脈に即して書く設問では、全国の平均正答率と比べて、やや下回っている。

3　「帯」を文脈に即して書く設問では、全国の平均正答率と比べて、やや上回っている。

【設問二】文脈に即して漢字を正しく読むこと

1　「異論」を文脈に即して読む設問では、全国の平均正答率と比べて、やや上回っている。

2　「風刺」を文脈に即して読む設問では、全国の平均正答率を上回っている。

3　「連（なる）」を文脈に即して読む設問では、全国の平均正答率と比べて、やや上回っている。

【設問三】語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うこと

ア　適切な語句（「閉口」）を選択する設問では、全国の平均正答率と比べて、やや下回っている。

イ　適切な語句（「抱負」）を選択する設問では、全国の平均正答率を上回っている。

ウ　適切な語句（「就く」）を選択する設問では、全国の平均正答率と比べて、やや上回っている。

エ　適切な語句（「踏む」）を選択する設問では、全国の平均正答率と比べて、やや上回っている。

オ　適切な語句（「にわかに」）を選択する設問では、全国の平均正答率を上回っている。

カ　適切な語句（「馬」）を選択する設問では、全国の平均正答率と比べて、やや上回っている。

【設問四】漢字の楷書と行書との違いを理解して書くこと

・行書を楷書で書く設問では、全国の平均正答率と比べて、やや上回っている。

【設問五】敬語の働きについて理解することと、文脈の中で敬語を適切に使うこと

1　「母がイギリスに帰りました。」という言い方が正しい理由として適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比べて、やや上回っている。

2　適切な敬語を選択する設問では、全国の平均正答率と比べて、やや上回っている。

【設問六】修飾語と被修飾語の照応を理解すること

・「すさまじい」と就職・日就職の関係にあるものを選択する設問では、全国の平均正答率と比べて、やや上回っている。

【設問七】比喩を用いた表現を理解することと歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むこと

1　「かすみ」や「雲」のように見えたものを本文中から抜き出す設問では、全国の平均正答率を下回っている。

2　歴史的仮名遣い（にほふ）を現代仮名遣いに直して読む設問では、全国の平均正答率と比べて、やや下回っている。

　「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」における、「設問一」の「文脈に即して漢字を正しく書くこと。」のうち、「『均等』の漢字を書く」については、全国の平均正答率と比べて、やや下回っている。漢字を書くことの指導においては、文脈に即して使えるように指導することが大切である。その際、実際に漢字を使う機会を多くし、習熟を図ることが求められる。

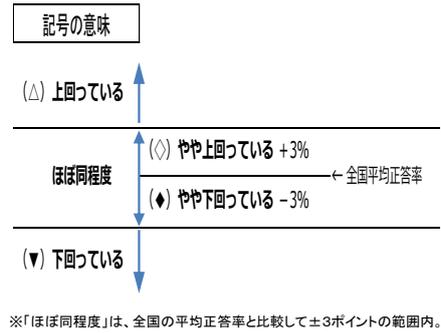
　「設問三」の「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うこと。」のうち、「『閉口』選択する」については、全国の平均正答率と比べて、やや下回っている。語句についての理解を深めるためには、語句の辞書的な意味を基にして、話や文脈の中での意味を捉えることが大切である。同音異義語や類義語、また慣用表現などを取り上げながら、意味の違いや用法の違いについて考える指導が効果的である。

　「設問七」の「比喩を用いた表現を理解することと歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むこと。」のうち「『かすみ』や『雲』のように見えたものを本文中から抜き出す。」については全国の正答率を下回っている。また、「歴史的仮名遣い（にほふ）を現代仮名遣いに直して読む。」については、全国の平均正答率と比べて、やや下回っている。古典の学習の際には、古典に親しむ態度を育むことが大切である。そのためには、文語のきまりや表現の技法について理解すること、音読を通して古典特有のリズムに気付くこと、内容を大まかに捉えることなどが求められる。現代にも息づいている伝統的な言語文化に触れる指導の充実が必要である。

設問別調査結果　［中学校　国語Ｂ：主として活用］

分類・区分別集計結果

分類	区分	対象設問数（問）	平均正答率（%）	
			札幌市	全国（公立）
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	0		
	書くこと	3	△	62.7
	読むこと	8	◇	67.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	1	△	64.6
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	△	62.7
	話す・聞く能力	0		
	書く能力	3	△	62.7
	読む能力	8	◇	67.8
	言語についての知識・理解・技能	1	△	64.6
問題形式	選択式	5	◇	68.2
	短答式	1	◇	77.5
	記述式	3	△	62.7

※「ほぼ同程度」は、全国の平均正答率と比較して±3ポイントの範囲内。

設問別集計結果

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				問題形式			札幌市		全国（公立）	
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	選択式	短答式	記述式	正答率（%）	無解答率（%）	正答率（%）	無解答率（%）
１一	段落相互の関係について説明したものとして適切なものを選択する	段落相互の関係を理解し，文章の展開を捉える			○		○			◇	0.4	71.7	0.4
１二	図が示す内容を説明したものとして適切なものを選択する	図と文章との関係を捉える			○		○			◇	0.4	62.7	0.4
１三	「かるた」について分かったことを基に，さらに調べたいことと調べる方法を具体的に書く	課題を決め，それに応じた情報の収集方法を考える		○	○				○	◇	2.9	57.9	2.8
２一	エヌ氏の生活について説明した言葉を本文中から抜き出す	文章の展開に即して内容を捉える			○			○		△	2.6	77.5	2.6
２二	表現の効果を説明したものとして適切なものを選択する	表現の仕方に注意して読み，その効果を考える			○		○			◇	0.5	75.6	0.5
２三	文章を読んで感じたことや考えたことを具体的に書く	文章の内容について，根拠を明確にして自分の考えを書く		○	○				○	△	12.7	65.7	11.3
３一	新聞記事の書き方の特徴を説明したものとして適切なものを選択する	文章の構成や表現の特徴を捉える			○		○			◇	0.7	61.0	0.9
３二	資料がどのような疑問を解決するための参考になるのかを説明したものとして適切なものを選択する	情報を関連させて読む			○		○			◇	0.9	70.2	1.2
３三	間違えやすい漢字を学習する際の注意点やコツを，漢字の特徴を取り上げて説明する	漢字の特徴を捉えて，自分の考えを具体的に書く		○		○			○	△	5.1	64.6	5.4

（△）上回っている （◇）ほぼ同程度だがやや上回っている （－）全国平均と同じ （◆）ほぼ同程度だがやや下回っている （▼）下回っている

【設問分析】

１　説明的な文章を読む（いろはかるた）

１は、説明的な文章を読んで、段落相互の関係を理解し、文章の展開を捉えること、図と文章との関係を捉えること、課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考えることができるかどうかをみるものである。設問一では、段落相互の関係を理解し、文章の展開を捉えることができるかどうかについて、設問二では、図と文章との関係を捉えることができるかどうかについて、それぞれ選択式で問われている。設問三では、課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考えることができるかどうかについて、記述式で問われている。

【設問一】段落相互の関係を理解し、文章の展開を捉えること

・段落相互の関係について説明したものとして適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比べて、やや上回っている。

【設問二】図と文章との関係を捉えること

・図が示す内容を説明したものとして適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比べて、やや上回っている。

【設問三】課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考えること

・「かるた」について分かったことを基に、さらに調べたいことと調べる方法を具体的に書く設問では、全国の平均均正答率と比べて、やや上回っている。

「読むこと」領域における、「文章の構成や展開、表現の特徴について、自分の考えを持つこと。」また、「設問一」の「文章全体と部分との関係、例示や描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てること。」については、全国の平均正答率と比べて、やや上回っている。

また、「設問三」の「書くこと」領域における、「日常生活の中から課題を決め、材料を集めながら自分の考えをまとめること。」及び「読むこと」領域における「本や文章などから必要な情報を集めるための方法を身に付け、目的に応じて必要な情報を読み取ること。」はいずれも全国の平均正答率と比べて、やや上回っているが、正答率が低い。

説明的な文章を読む際には、段落相互の役割を捉えることで、論理の展開の仕方を理解させる指導が引き続き重要である。指導に当たっては、指示語や接続語など、各段落の始めの言葉に注意して読むだけではなく、内容を要約し、段落相互の関係についてまとめさせる指導が効果的である。

図表などを用いた説明的な文章を読む際には、図表がどの部分と関連しているかを確認するとともに、その図表が用いられている意図を考えることが大切である。学習活動としては、図表が用いられている場合と用いられていない場合を比較したり、図表を比較することでその意図の違いを明確にするなどが考えられ、その学習を、説明的な文章を書く際に生かしていくことが大切である。

文章を読んでものの見方や考え方を広げるには、理解したことの中から新たな課題を見いだすような読み方をする指導が必要である。また、見いだした課題を解決するには、学校図書館や、情報通信ネットワークなどを利用した情報収集が必要である。これらの手段の特徴を理解し、自分の課題にあった手段を選択できるような指導が重要である。

2　文学的な文章を読む（「装置の時代」）

2 は、文学的な文章を読んで、文章の展開に即して内容を捉えること、表現の仕方に注意して読み、その効果を考えること、文章の内容について、根拠を明確にして自分の考えを書くことができるかどうかについてみるものである。設問一では、文章の展開に即して内容を捉えることができるかどうかについて短答式で、設問二では、表現の仕方に注意して読み、その効果を考えることができるかどうかについて選択式で、設問三では、文章の内容について、根拠を明確にして自分の考えを書くことができるかどうかについて記述式で、それぞれ問われている。

【設問一】文章の展開に即して内容を捉えること

・エヌ氏の生活について説明した言葉を本文中から抜き出す設問では、全国の平均正答率を上回っている。

【設問二】表現の仕方に注意して読み、その効果を考えること

・表現の効果を説明したものとして適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比べて、やや上回っている。

【設問三】文章の内容について、根拠を明確にして自分の考えを書くこと
・文章を読んで感じたことや考えたことを具体的に書く設問では、全国の平均正答率を上回っている。

「読むこと」領域における、「設問一」の「場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること。」については、全国の平均正答率を上回っている。「設問二」の「文章の構成や展開、表現の特徴について、自分の考えをもつこと。」については、全国の平均正答率と比べて、やや上回っている。

また、「書くこと」領域における、「設問三」の「伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書くこと。」及び「読むこと」領域における、「文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広くすること。」については、全国の平均正答率を上回っているが、無解答率が高い。

文学的な文章を読む際には、説明的な文章を読む際には、登場人物の心情や行動、情景描写などに注意するとともに、文章全体に目を向け内容を把握した上で、文章の構成や展開、表現の特徴を分析的に捉え、その工夫や効果について考えたり、書き手のものの見方や考え方について自分の考えをもつことが大切である。そのためには、作品全体を通読して、表現の効果や書き手の意図などを捉え、自分の考えをもつ学習活動が有効である。

文学的な文章を読んで、感じたことや考えたことを書く際には、根拠を明確にして書く必要がある。根拠として本文を引用する場合には、引用した部分が自分の考えの根拠として妥当であるかを考えることが重要である。例えば、感想を交流する際に、感じたことや考えたことが近い者同士で、根拠となる部分を比べる学習活動が有効である。

３　資料を参考に、漢字について考える

３ は、説明的な文章とグラフを読む際に、文章の構成や表現の特徴を捉えること、情報を関連させて読むこと、漢字の特徴を捉えて、自分の考えを具体的に書くことができるかどうかをみるものである。設問一は、文章の構成や表現の特徴を捉えることができるかについて、設問二は、情報を関連させて読むことができるかどうかについてそれぞれ選択式で、設問三は、漢字の特徴を捉えて、自分の考えを具体的に書くことができるかどうかについて記述式で問われている。

【設問一】文章の構成や表現の特徴を捉えること
・新聞記事の書き方の特徴を説明したものとして適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比べて、やや上回っている。

【設問二】情報を関連させて読むこと
・資料がどのような疑問を解決するための参考になるのかを説明したものとして適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比べて、やや上回っている。

【設問三】漢字の特徴を捉えて、自分の考えを具体的に書くこと
・間違えやすい漢字を学習する際の注意点やコツを、漢字の特徴を取り上げて説明する設問では、全国の平均正答率を上回っている。

「読むこと」領域における、「設問一」の「文章の構成や展開、表現の特徴について、自分の考えをもつこと。」及び「設問二」の「本や文章などから必要な情報を集めるための方法を身に付け、目的に応じて必要な情報を読み取ること。」については、全国の平均正答率と比べて、やや上回っている。

「書くこと」領域における、「設問三」の「事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりして書くこと。」及び「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」における「学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うこと。」については、全国の平均正答率を上回っている。

複数の資料を関連付けて読む際には、自分の課題に即して必要な情報は何かを考え、それぞれの資料で述べられている情報や特徴を正確に捉えた上で、目的に応じて情報を取捨選択することが求められる。

漢字を学習する際には、漢字の特徴を理解し、文章の中において文脈に即して読んだり書いたりすることが重要である。また習得だけではなく、漢字についての知識を活用することも漢字の理解を深める上で有効である。部首から意味を類推したり、似た意味を表す漢語表現と和語表現を比較し、それぞれが使われる場面やその特徴について話し合う学習活動などが考えられる。

中学校　国語

児童生徒質問紙【教科に関する設問】	【１】	【２】	【３】	【４】
国語の勉強は好きですか	22.8	36.8	27.6	12.6
国語の勉強は大切だと思いますか	50.1	36.3	9.4	3.8
国語の授業の内容はよく分かりますか	23.7	48.5	21.7	5.9
読書は好きですか	53.4	22.9	13.8	9.6
国語の授業で学習したことは，将来，社会に出たときに役に立つと思いますか	38.7	40.6	14.9	5.5
国語の授業で目的に応じて資料を読み，自分の考えを話したり，書いたりしていますか	10.9	32.9	41.1	14.7
国語の授業で意見などを発表するとき，うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか	10.3	33.1	40.9	15.4
国語の授業で自分の考えを書くとき，考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか	18.6	40.9	30.3	9.9
国語の授業で文章を読むとき，段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいますか	21.1	42.2	28.0	8.3

【1】　当てはまる　　　　　　　　　　　　　　　　　　（単位は%）
【2】　どちらかと言えば、当てはまる
【3】　どちらかと言えば、当てはまらない
【4】　当てはまらない

＜設問分析＞

○「国語の勉強は好きですか」という質問では、肯定的に回答した割合が 59.6%となっており、全国平均を 1.9 ポイント上回っている。今後とも、生徒の興味・関心を引き出し、意欲を高める指導を工夫していくことが求められる。

○「国語の勉強は大切だと思いますか」という質問では、肯定的に回答した割合が 86.4%となっており、全国平均と比較すると 2 ポイント下回っている。学習した内容が生活の中で活用され、生徒に国語の必要性を感じさせるような授業づくりの展開が今後とも求められる。

○「国語の授業の内容はよく分かりますか」という質問では、肯定的に回答した割合が 72.2%となっており、全国平均を 0.3 ポイント上回っている。分かる授業づくりに向けて工夫改善の継続が求められる。

○「読書は好きですか」という質問では、肯定的に回答した割合が 76.3%となっており、全国平均を 6.2 ポイント上回っている。現在、札幌市では、「読書」を生涯にわたる学びの基盤と押さえて、各学校における朝読書の定着が進んでおり、今後ともあらゆる機会を通じて、読書に親しむ活動を積極的に展開してきたことの成果がみられる。

○「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか」という質問では、肯定的に回答した割合が 79.3%で、全国平均と比較して 2.1 ポイント下回っている。言語活動の充実が

国語科を中心として、全教科で求められているところであり、今後とも生徒が国語の学習の有用性を感じることのできるような工夫した学習指導の展開が求められる。

○「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか」という質問では、肯定的に回答した割合が 43.8%となっており、全国平均と比較すると 8.4 ポイント下回っている。資料を有効に活用して、根拠を明確にして自信をもって作品を批評したり意見を述べたりすることができるような指導の工夫が引き続き求められる。

○「国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか」という質問では、肯定的に回答した割合は 43.4%となっており、全国平均と比較すると 3.7 ポイント下回っている。自分の意見が相手（聞き手）に正確に伝わるように心がけることは、日常の言語活動においても大切なことであり、あらゆる機会を通じてよい面を積極的に評価しながら、場面や相手に応じた効果的な話し方を意識させる指導の充実が一層求められる。

○「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いていますか」という質問では、肯定的に回答した割合は 59.5%で、全国平均と比較すると 0.9 ポイント下回っている。根拠を明確にして書くことは、説得力のある表現につながることであり、書くときの心構えとして意識させる指導の充実が望まれる。

○「国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいますか」という質問では、肯定的に回答した割合は 63.3%となっており、全国平均と比較して 1.2 ポイント下回っている。文章の構成や工夫された表現を、書き手の意図を考えながら読み進めていくことは、同時に中心的な部分と付加的な部分や事実と意見を区別しながら読むことにもつながり、要約する学習にも効果的な読み方であるので、一層の指導の充実が求められる。